



はらじゅくかわら版

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療を受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



栄消防署テロ災害対応訓練の様子。
記事「栄消防署テロ災害対応訓練にYMAT隊員として参加して」は2ページに掲載。

行事紹介

- 第5回アフリカ開発会議(TICADV)に医療スタッフとして参加して・・・1
- 栄消防署テロ災害対応訓練にYMAT隊員として参加して・・・2

お知らせコーナー

- 健康寿命と市民公開講座・・・3
- 横浜看護学校－学校説明会ご案内－・・・4
- 防災訓練を実施しました・・・4
- 看護フェスティバルを開催して・・・5
- 就任挨拶・・・5

病診連携施設紹介

- 外来担当医表／編集後記・・・7

第41号 目次



発行 月：平成25年7月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構
 横浜医療センター 広報委員会
 発行責任者：工藤 一大
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 FAX : 045-851-3902
 URL : http://www.yokohama-mc.jp



●当院携帯サイトはこちらから

行事紹介

第5回アフリカ開発会議(TICADV)に 医療スタッフとして参加して

ICU看護師 竹内 加奈恵



今年6月、横浜市みなとみらい地区で第5回アフリカ開発会議が開催されました。アフリカ開発会議（TICAD）とは、日本政府が国連、世界銀行等と共催するアフリカの開発をテーマとする国際会議です。これまで、1993年から5年に1度開催され、2008年の第4回会議も横浜で開催されています。今回私は、当院救命救急センター長古谷良輔医師とともに現地医療スタッフとして参加する機会を頂きました。私はこのような大きな現場へ派遣される機会が初めてだったので、国際会議というものがどのようなのか全く想像のつかないまま、2回の打ち合わせを終え、緊張は高まるばかりでした。

当日は、横浜市大救命救急センターの医師・看護師の方も1名ずつ参加し、私達医療スタッフの他にも、警察、消防、外務省や横浜市職員など多くの方々が集まりました。会場は、空港のようなセキュリティチェックが設備され、非常に物々しい雰囲気の中での活動となりました。

私達の活動場所はパシフィコ横浜・会議センター内にある救護所で、会議に参加する外国人や外務省職員の救護対応でした。救護所には英語、フランス語の通訳の方や事務の方が一緒に待機しており、連携を図りながら対応する形となっていました。

担当した8時から18時までの間には、外国人4名、日本人2名が救護所に来られました。それぞれ医師の診察と消毒・軟膏処置・処方等で対処でき、大事に至ることはありませんでした。外国人の方と接する状況では普段の診察と異なり、言葉や習慣・体質などを考慮しなくてはならないことも多く、戸惑うこともありましたが、しかし、医師や通訳の方との連携をとることでスムーズに対応することが出来たと思います。私は英語があまり得意ではありませんが、挨拶や笑顔でのコミュニケーションは万国共通だと改めて感じました。

また救護所では、普段勤務している病院とは違い、慣れない環境や限られた物品での活動による不自由さを感じ、それに気を取られてしまい普段のような接遇がおろそかになっていないだろうかを感じる場面もありました。どんな環境であっても、診察に来られた方に対し少しでも安心して診察を受けて頂けるような工夫や、物品の準備・確認を確実にすること、そして笑顔でのコミュニケーションなど、普段から行っている看護の基本を振り返る機会になったと思います。

気が付けばいつの間にか緊張は解け、最後には、事前打ち合わせ含め数回しか顔を合わせていない事務局の方々や当日に初めてお会いした方ともみんなで一つの達成感を得られたように思います。今後も今回の経験を生かし、日々の看護がさらに充実したものになるよう努力していきたいと思っています。



行事紹介

栄消防署テロ災害対応訓練にYMAT隊員として参加して

研修医 小林 由幸

2013年5月10日、栄消防署テロ災害対応訓練が行われました。この訓練は、第5回アフリカ開発会議（2013年6月1日～6月3日）の横浜開催に備え、消防・警察・医療機関など、各関係機関の相互の連携を確認、強化することを目的として実施され、当院から救急科医師2名看護師2名と自分の5名が、横浜医療救急チーム（YMAT）として参加しました。私は救急科研修の一環として同行しましたので、ご報告させていただきます。



YMATとは、国・都道府県単位で運営されているDMATを参考に、横浜市内の大規模災害において、県 DMAT 等の派遣を待たず緊急医療を実施する目的で2008年に発足しました。救命救急センターを持つ市内5病院にチームが置かれており、当院もその一つです。DMATと比べ、地域救急隊と常に連携し、一体化した医療チームを目指している点が特徴で、日頃から積極的に合同訓練に参加しており、私自身2回目の参加となりました。

今回の訓練内容は、JR 本郷台駅において、何者かが置いた不審物から有毒ガスが発生し、多数の駅利用者が負傷したという想定で、実際にJR本郷台駅を閉鎖して行われ、計16隊100名が参加した大規模なものでした。化学防護服に身を包んだ隊員や、消防隊の特殊車両が並び、周囲は緊張感に包まれていました。



我々YMAT隊は、到着後まず指揮本部傘下に入り情報収集し、その後トリアージポストへ誘導された傷病者のトリアージ及び観察を行いました。そこに重症患者2名が搬出され、現場でできる処置を行い救急車に収容したところで、訓練終了となりました。訓練後には栄救急隊と検討会を行い、お互いに反省点を確認し、実際に災害が起きたときにどう動くかを確認し合い、大変有意義な1日となりました。

通常時は迅速な搬送が重視されていますが、災害時は、傷病者を速やかに病院へ搬送することが難しいため、医療チームが現場へ出動し治療を開始することが極めて重要となります。この際各関係機関との情報共有や、限れた医療資源で傷病者全体に対して最大の効果をもたらすという概念など、院内での通常時の診療とは異なる要因が多数あります。このため、日頃からの訓練が非常に重要となります。私自身としては、初回の訓練参加時に現場の空気に飲まれて頭が真っ白になってしまったのに比べれば、今回は少し周りが見えていたかな、と思える点もありましたが、実際の災害時に自信を持って医療を行うにはまだまだ至りません。今後も機会があれば積極的に参加させていただき、緊急時に動ける医師になりたいと思い、精進していきます。

お知らせコーナー

健康寿命と市民公開講座

地域中核連携室長 奥津 正仁

■健康寿命を延ばすということ

いつまでも健康で自立した生活ができるということは、誰もが望んでいることです。「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことを健康寿命と呼んでいます。最近では、「神奈川県が健康寿命日本一達成に向けて健康寿命日本一戦略会議を設置」という報道がありました。当院でも、この健康寿命を延ばすということは、皆様の生活の質の向上という観点から、平均寿命を延ばすことと併せてとても大切なことであると考えています。また、このことは、医療費抑制の観点からも今後ますます注目されることとなるでしょう。

■生活習慣病を知って予防する

健康寿命に影響を及ぼす原因は様々ですが、生活習慣病もその原因のひとつとなっています。生活習慣病は、毎日のよくない生活習慣の積み重ねによって引き起こされる病気です。

神奈川県内の治療中の患者数を見ると、糖尿病21万人、高血圧性疾患48万7千人、がん10万3千人、脳血管疾患7万5千人、心疾患7万2千人となっています（平成23年患者調査）。この患者数からも分かるように、これらの生活習慣病によって日本人の3分の2近くの方が亡くなられ、また、介護が必要となる主な原因の疾患にもなっています。そこで、生活習慣病の発症を防ぎ、健康寿命を延ばすためには、生活習慣病に関する知識を得て、自ら予防していくことがとても大切です。

■地域の保健活動推進員の皆様との連携

横浜市では、自治会町内会の推薦により市長から委嘱された保健活動推進員の方々が、地域の健康づくりに熱心に取り組まれています。今年度の当院の医療講座は、地域の保健活動推進員の皆様と連携して、住民の方々のより身近な場所に当院の医師が伺って開催するという方法で進めます。今年度は、戸塚区の保健活動推進員の皆様からの申込みを受けて、地域の皆様が希望される生活習慣病をテーマとして講座を開催する予定です。

■「がん」をテーマに市民公開講座

当院は、今年度より神奈川県から「がん診療連携指定病院」に指定されました。質の高いがん医療の提供はもとより、相談事業や講演会等による情報提供などをおして、より一層がん診療・患者支援の充実・がんに関する知識の普及啓発に努めてまいります。

その一環として、地域に密着した講座のほかに、今年度も「がん」をテーマとした市民公開講座を開催します。この講座は、日程が決まりましたら改めてホームページ等でご案内させていただきます。

当院は、患者の皆様がより良い医療を受けられるよう日々努めておりますが、さらに地域の皆様がいっまでも健康であることを目指して、今後も医療講座を開催してまいります。

お知らせコーナー

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター附属横浜看護学校 ～学校説明会 お申し込み受付中!!～

- 受付：9時～9時30分
- 説明会：9時30分～12時30分



★お電話、Mailで、
事前にお申し込み下さい

第1回	7月20日（土）	【公開講座】
第2回	7月31日（水）	
第3回	8月26日（月）	【公開講座】
第4回	9月21日（土）	
第5回	10月26日（土）	【楓葉祭】
第6回	11月30日（土）	【公開講座】
第7回	3月 8日（土）	【公開講座】

【住所】〒245-0063 横浜市戸塚区原宿3-60-2

【問合せ】TEL：045（853）8322

【HP】<http://www.yokohama-ns.com/>



防災訓練を実施しました

教員 遠藤 実菜

横浜看護学校では5月15日に、学生・職員全員が参加し、防災訓練を行いました。

当日は、横浜市消防局戸塚消防署大正出張所のみなさんのご指導の下、避難訓練や初期消火訓練、煙ハウスの体験を行いました。また、業者の方に学校に設置している緩降機の使用方法をご指導いただきました。

避難訓練では昨年の反省点を活かし、スピーディな避難や階段付近の混雑解消に取り組みました。なかなか放送が聞こえず混乱する様子も見られましたが、全体的にはスムーズに避難場所まで避難することができました。また、お互いに声を掛け合い点呼をとり、所在確認を行っていました。初期消火や煙ハウスの体験を行い、実際の火災の場면을想定し行動することの難しさについて考えることができていました。

1年生にとっては入学後1か月ほどしか経たない中での避難訓練でした。しかし、避難訓練の振り返りの中では、どの学年も自分自身が避難することと共に、看護師として働き始めた時には、患者さんと共に避難するのだということを考えることができていました。

東日本大震災から2年が経ちました。防災への意識を低下させないよう、今後も日常生活の中から災害対策に取り組んでいきたいと思えます。



お知らせコーナー

看護フェスティバルを開催して

がん看護専門看護師 日塔 裕子

21世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を私たち一人一人が分かち合うことが必要だと言われていています。こうした心をだれもが育むきっかけとなるよう、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、旧厚生省により1990年5月12日が「看護の日」と制定されました。

当院では毎年5月に“看護の日イベント”を開催しており、今年度も5月16日（木）に専門・認定看護師が中心となり「横浜医療センター看護フェスティバル」を開催しました。

毎年恒例の“健康相談”“ハンドケア”“手洗い”に加え「知識と技術を持つプロフェッショナルとしての看護師の活動」について患者とご家族の皆様、地域の方々に広く知って頂く事を目的に今回初めて展示を試みました。“当院の役割や機能”や“チーム医療で活躍する看護師たち”（皮膚・排泄ケア、緩和ケア、がん性疼痛看護、感染、脳卒中、嚥下の各分野の認定看護師、がん看護専門看護師）の役割や活動内容を掲示した展示コーナーを外来の一画に設け、1週間展示したところ、多くの方が足を止めてくださいました。その反応として“このような広報をしてくださり大変参考になりました。”“今回知らなかった色々な知識を知ることができて良かったです。”などの感想を頂くことが出来ました。

今後も地域の皆様方に看護の質の良さで選んで頂けるように努力していきたいと考えています。



就任挨拶

産婦人科 部長

母子医療センター部 副部長 奥田 美加

2013年4月より、産婦人科部長・母子医療センター部 副部長に就任いたしました奥田美加です。3月までは、横浜市立大学附属市民総合医療センター総合周産期母子医療センター准教授として、周産期医療（産科）に携わっておりました。窪田部長と2本柱で、私は前職の経験を生かし主に周産期の分野において、妊産婦さんが安全快適に分娩できるよう、スタッフとともに全力で診療にあたる所存です。ハイリスク妊産婦の管理には、他科の先生方のご協力が不可欠です。当院に着任してはや3か月、各診療科のフットワークが軽く、相談しやすい雰囲気を感じています。また、看護職、検査技師、事務職、その他すべてのスタッフもたいへんレベルが高く、働きやすい病院です。



諸般の事情により、昨年度から分娩予約件数を制限し、産科救急症例の受け入れを一時停止しておりましたが、本年度より診療体制がやや改善しましたので、月間分娩予約受入れ件数を少しずつ増やし、来年度中には以前の年間分娩件数800件超のレベルまで回復できるよう準備しております。そのためには地域の先生方との連携が欠かせません。以前おこなっていたセミオープンシステムを、一部改変し再開いたします。ローリスク妊産婦さんの妊婦健診を地域で受けていただくことにより、より多くの分娩を受け入れられますので、ご協力よろしくお願いたします。

産科救急は、小児科の協力もあり在胎30週かつ1,000g以上であれば受け入れが可能となり、すでに4月以降6月末日現在、母体搬送は双胎2例を含む10件を受け入れ、そのうち早産児が9名出生しNICUで治療を受けました。

診療体制の充実により、婦人科手術の件数も増やしたいと考えておりますので、貴重な症例のご紹介、および病状が安定した症例の逆紹介受入をお願いいたします。

病診連携施設紹介

踊場さかいだクリニック

診療科目：整形外科 リウマチ科 内科



右から三番目が境田博之院長

平素より横浜医療センターの皆様には、大変お世話になっております。

国立横浜病院の頃より、私にはとても思い出深い病院です。大学の先輩が勤務していたこともあり、同級生3人と一緒に4年生と5年生の夏休みを利用して約1週間、主に患者さんの予診取りなど内科病棟で実習をさせていただきました。この実習中、現在戸塚区医師会メディカルセンター原宿班の速水先生には白血病の講義をして頂き、当時副院長をされていた丸山先生には、横浜薬科大学に変わってしまったエンパイアホテル最上階のレストランでご馳走して頂きました。夕食は車で江ノ島方面へ繰り出し、病院の官舎に寝泊まりさせて頂き、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

昭和60年に卒業後、内科全般を研修した後、リウマチ性疾患を専門としていた恩師に師事し、主にリウマチ性疾患診療に従事しました。特に関節リウマチの診療において、内科の知識だけでは不十分で、整形外科の勉強もしたいと考えていました。そこで、恩師から整形外科の教授をお願いして頂き、整形外科の研修もさせて頂きましたが、大学という組織の中では、なかなか思うようには進みませんでした。医師は診療の中で患者さんから教えて頂く事が多く、もっと多くの患者さんを診させて頂く機会が得られないか、戸塚で整形外科医院をしていた父にも相談しました。

私の父は昭和38年に開業し、手術症例や手に負えない患者さんを当時の整形外科医長をなさっていた小林先生によくお願いしておりました。そんなこともあり、小林先生に無理をお願いして、手術カンファレンス・外来診療等の研修をさせて頂きました。この10年間は私にとって貴重な経験で、横浜市大から来られた先生方に巡り会えたことも大きな財産となっています。この後、父の医院で3年ほど一緒に診療し、平成14年より踊場交番の近くで整形外科・リウマチ科・内科を標榜して開業しております。現在医長の日塔先生には、父が小林先生にお世話になったように、手術適応、症例の相談など大変お世話になり感謝しております。関節リウマチの治療薬は格段に進歩しましたが、合併症や副作用への注意も必要で、優秀なリウマチ科があることは心強い限りです。また呼吸器内科、消化器内科をはじめ様々な科の先生方をお願いしていかねばならず、今後ともどうぞよろしく願います。



踊場さかいだクリニック

〒245-0061 神奈川県横浜市戸塚区汲沢8-2-1

TEL : 045-865-3365

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:30~12:30	●	●	●	●	●	●	/
午後 15:00~18:45	●	●	/	●	●	/	/

休診日 水曜午後・土曜午後・日曜・祝日

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考		
外来受付 A	小児科	鈴木 陽一 榑佐 香織 交代医師	菅井 和子 矢竹 暎子 榑佐 香織	菅井 和子 交代医師 交代医師	鈴木 陽一 矢竹 暎子 交代医師	交代医師① 榑佐 香織 交代医師	①:第1・3・5週 福山 綾子、第2・4週 小林 慈典	
	心臓血管外科	盆子原 幸宏	休診日(手術日)	東館 雅文	東館 雅文	東館 雅文	木曜日は予約患者のみ(新患受付無し)	
	形成外科		村下 一晃	休診日(手術日)	村下 一晃	村下 一晃		
	整形外科	瀬上 秀威 石ヶ坪 諒 鈴木 宙	日塔 真昇 伊藤 りえ 日野 勝利	瀬上 秀威 高 倫浩 鈴木 宙	日塔 真昇 林 陸 伊藤 りえ	石ヶ坪 諒 林 陸 高 倫浩		
			★瀬上 秀威			★日塔 真昇	★:予約患者のみ。	
外来受付 B	総合内科外来	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師		
	糖尿病内分泌内科	小松 裕美子 高木 佐知子	高木 佐知子	宇治原 誠 ◎藤原 薫美	宇治原 誠	交代医師	◎:Aブロックで診察。午前のみ。	
	神経内科	古宮 裕泰	岡井 美紗子	上木 英人	岡本 光生	高橋 竜哉		
	腎臓内科	松下 啓	小宮 麻里子	山名 比早子	松下 啓			
	呼吸器内科	後藤 秀人	▽榑原 基史	山川 泰	休診日(検査日)	須藤 成人	▽:Aブロックで診察。紹介状持参の方のみ。	
	消化器内科	塩原 康正 (初診)	小林 亜也子(初診) 鈴木 大輔 小松 達司	小松 達司(初診) 松島 昭三	小林 亜也子(初診) 野登 はるか	交代医師(初診) 小松 達司		■:午後予約のみ
		循環器内科	森 文章 内田 吉枝	岩出 和徳 網代 洋一(午前) ◎逸見 隆太	田中 直秀	田中 直秀(午前)	岩出 和徳 森田 紗恵	②:第1・2週 田中 直秀、第3・4・5週 岩出 和徳
	リウマチ科	出口 治子	宮城 瑠美子 ◎出口 治子	休診日 (検査日)	宮城 瑠美子 ◎出口 治子	宮城 瑠美子		
	外科	清水 哲也 榑垣 里沙 山本 悠史	関戸 仁 松田 悟郎 齊藤 修治	松田 悟郎 杉政 奈津子 松本 裕輝	松田 悟郎 清水 哲也 榑垣 里沙	休診日 (手術日)		
		呼吸器外科		安藤 耕平 野間 大督 交代医師③		安藤 耕平 ◎向原 茂雄	坂本 和裕 野間 大督 藤津 和彦 市川 輝夫 ●しびれ外来	ご紹介については外来日以外でも随時受け付けておりますので、直接ご連絡ください。 ③:第1・3・5週 岡田 富、第2・4週 宮原 宏輔 ④:第1・3・5週 瓜生 康浩、第2・4週 谷野 慎 ●:午後のみ。PM3:00まで初診を受け付けています。 ◆:第5週は休診。 ◇:脳ドックの詳細はPM2:00～5:00の間に「医事 脳ドック受付」までお問い合わせください。
	脳神経外科	休診日 (手術日)	手術日	◇脳ドック	手術日			
	麻酔科	田澤 利治		田澤 利治		田澤 利治		
	外来受付 C	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	◎佐々木 祐幸 手術日	○:予約外の診察には紹介状が必要です。
		眼科	木村 正彦 熊代 俊	木村 正彦 熊代 俊	木村 正彦 熊代 俊	木村 正彦 熊代 俊	休診日 (手術日)	火曜日は新患(要紹介状)・急患のみとなります。 (8:30～11:00)
		泌尿器科	本田 直康 奥野 紀彦	本田 直康 若田部 陽司	休診日 (手術日)	奥野 紀彦 若田部 陽司	本田 直康 高田 治子	
皮膚科		宮田 聡子 船津 栄	宮田 聡子 船津 栄	宮田 聡子 船津 栄	宮田 聡子 船津 栄	宮田 聡子 船津 栄	水曜日午後は手術の為、入院患者の依頼はお断りしています。 至急診察が必要な場合は、電話をお願いします。	
外来受付 D	心療内科	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査		
	精神科	折田 真央	大橋 茉莉子 木村 将裕	古野 拓	山口 和己	土屋 美江 高石 政男	※月～金:初診の方は9時30分までに受付を済ませてください。(要紹介状、1日1名の予約制) 初診は左記の再診担当以外の医師が診察します。詳細は精神科外来にお尋ねください。	
	婦人科	長谷川 環	奥田 美加	窪田 興志	栗杉 輝彦	中村 秋彦	初診には紹介状が必要。	
	産科	窪田 興志	若林 玲南	奥田 美加	高木 信博	長谷川 環	初診は、火・木曜日8:30～11:00。初診患者は随時受付(紹介状から直接連絡ください)。再診は完全予約制。再診患者は電話をお願いします。 初診:紹介状又は診療情報提供書を持参してください。 詳細については産科口産科部長にお問い合わせください。	
専門外来 (他の医療機関からの予約制)	小児科	アレルギー検査	腎臓外来(⑤)	アレルギー(菅井)	フォローアップ外来 (福山)	アレルギー(内田)	⑤:第1・3週(火)長濱	
		シナス(10～4月) (矢竹)	フォローアップ外来 (矢竹)	アレルギー(宮地)	1カ月健診 (矢竹)	神経外来(⑥)	⑥:第1・3・5週(金)本井	
		アレルギー(菅井)	アレルギー(鈴木)	予防検診(交代制) 13:30～14:30	1カ月健診 (交代医師)	循環器外来(鈴木)		
	整形外科	感染症免疫・アレルギー (小林)	アレルギー(小堀)	アレルギー(小堀)			毎週15:00～16:00 予約のみ	
	神経内科		◎頭痛外来 摂食・嚥下外来 物忘れ外来				◎第2・4週(頭痛外来)、第1・3・5週(摂食・嚥下外来) 地域連携室を通して完全予約制	
	糖尿病内分泌内科	糖尿病連携バズ外来						
	腎臓内科	腹膜透析外来		腹膜透析外来	腹膜透析外来			
	看護部			糖尿病看護ケア外来 糖尿病フットケア外来	糖尿病看護ケア外来 糖尿病フットケア外来			
	外科		スキンケア外来	スキンケア外来	乳がん検診			
	耳鼻咽喉科				補聴器外来(午後)			
	循環器科			ハースメーカー外来	睡眠時無呼吸 症候群外来			
	精神科	物忘れ外来				物忘れ外来	初診には紹介状が必要。1日1名の予約制。	
	産婦人科	助産師外来 母乳外来(午後) ▽母親教室	助産師外来 母乳外来(午後)	助産師外来	助産師外来 母乳外来(午後)	助産師外来 母乳外来(午後)	▽:午後のみ。夫立会教室は第2・4週土曜日、第3週日曜日。 地域連携室を通して完全予約制(第1金曜日のみ)	
	呼吸器外科					アスベスト外来(坂本)	9:00～11:00	
	放射線科	海津 久		榑多 政治	向井 佑希			

初診 受付: 平日 8:30～10:00
 再診 (予約外) 受付: 平日 8:30～10:00
 休診 日: 土曜・日曜日・祝日・12月29日～1月3日
 地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
 ※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
 ※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)
 TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
 FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

◆編集後記◆

本号より編集作業に携わることとなりました。かつて、国立病院機構本部の「広報文書課」に勤務していましたが、広報誌に関する仕事は未経験です。はらじゅくかわら版がよりよいものとなるよう尽力いたしますので、よろしくお願いたします。(Y. H)